働く場所は、生きる場所

-町工場衰退地区における工場住宅-

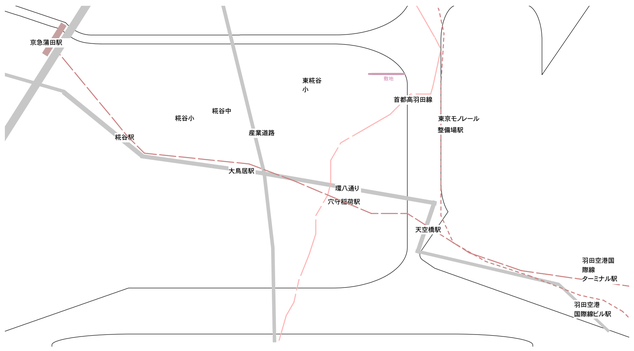
5108401飯田侑希

CONCEPT

失われる「働く場所」
交通インフラが進み、東京都心のオフィス街には郊外から通勤する人が多くなった
建築法規もそれを助長するように、工業、商業、住居と用途ごとに地区を整備した
よって現代において一般的に人々は、就労空間と居住空間とを使い分けて生活している
しかし、大田区にある下丸子～糀谷～羽田地区には町工場地帯が形成され、そこでは「住工一体」という暮らし方が根付いている
ここでは、働く場所＝住まう場所であり即ち生きる場所であった

町工場という産業自体が衰退する中で、建築によって「住まい方」の継承を試みる

敷地周辺図1:1500



敷地：東京都大田区東糀谷6丁目

六郷用水路を埋め立ててできた暗渠上に緑道と公園が整備されている。

北前堀緑地

以前は六郷用水で、多摩川を水源とし、世田谷区、大田区と流れていた。
1945年　廃止が始まり、1970年代には住宅地化によりほとんどの六郷用水路は失われた。
人々の生活と一体化し親しまれてきた東京の用水路は、住宅地の確保や道路計画によってほとんど消滅してしまっている。
ここ糀谷地区でも、東京湾・海老取川・多摩川といった水辺に近い土地にも関わらず、一歩住宅街に入るとその気配はまるでない。

北前堀水門

古くは漁業を繋留、水路の廃止に伴い現在は200mほどが残り、船舶の係留所として使用。
東京都では河川や港湾に放置される船舶が増えており、2009年時点で約800隻の船舶が放置されている。
敷地付近は東京都の船舶適正保管の重点適正化区域にしていされており
係留場所の整備、また水辺　住区域の環境改善が求められている。

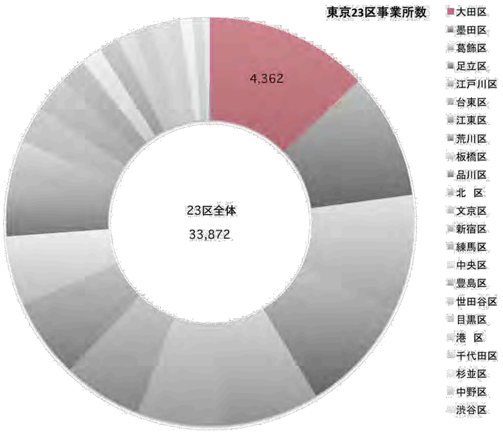
糀谷の歴史

大田区の南東部に位置し、呑川、海老取川が流れている。
古くは漁業が栄え、海苔の養殖も盛んであった。
昭和初期から沿岸部の埋め立てが始まり、羽田空港が建設された。
現在は糀谷地区に漁港は無く、船舶の係留所のみ存在する。
大田区の沿岸地区は、埋め立てに伴う漁業の廃業や羽田空港の騒音問題などに長年さらされてきた。

大田区に町工場が出来始めたのは大正時代である。

町工場

1から4人ほどの従業員、溶接や研磨の音が響く。工場の間に住宅や事務所が混在。
敷地内は、製造（金属加工、機械加工）が多い。
８０年代に、有害物質の排出が懸念される工場は昭和島などに転移させられているため、
小規模で比較的安全な工業のみ残る。



大田区は、工場数とその従業員数で東京都の市区町村中第１位、製品出荷額で第3位

大田区の工業は、工場数と従業員数で東京都の市区町村中第1位、製造品出荷額で第3位。
【平成20年現在の数（工業統計調査報告）】
工場数　　4,362（ピークの昭和58年には9,190件）
従業員数　　35,741人（昭和60年をピークに減少）
製造品出荷額　　7,796億円

従業員1人～9人の工場が全工場の約80％を占めており、大田区の工場のほとんどが従業員の少ない、小さな工場である。
なかでも、生産用機械器具製品・金属製品・はん用機械器具製品など、機械金属加工の工場が多くを占めている。
工場が発展した理由

従業員1人　9人の小さな工場が全工場の約80％。特に機械金属加工の工場が多くを占めている。

小さな工場が発展した理由

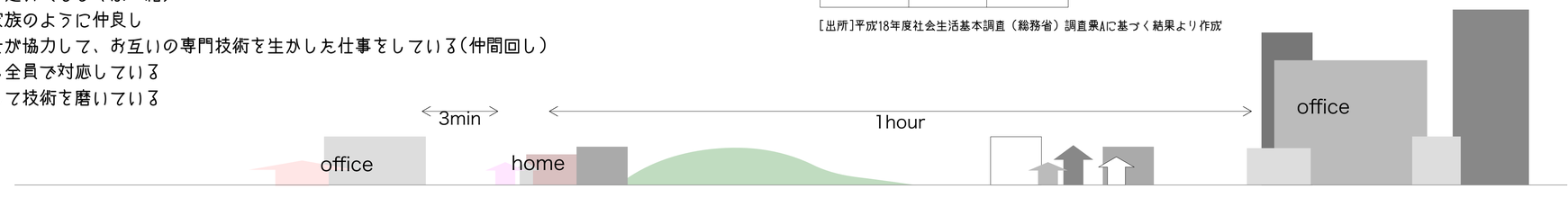
1 工場と住まいが近い（もしくは一緒）
2 従業員全員が家族のように仲良し
3 近くの工場同士が協力して、お互いの専門技術を生かした仕事をしている(仲間回し)
4 急ぎの仕事にも全員で対応している
5 みんなで工夫して技術を磨いている

図表１　居住地域別 正規社員の通勤時間（平日 男女計）　人口

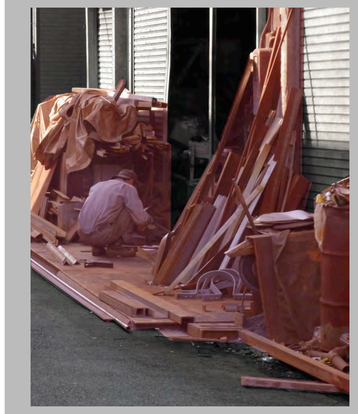
	人口	通勤時間(分)
全国平均	――	67
東京都	１位	84
神奈川県	２位	96
埼玉県	５位	91
千葉県	６位	94
大阪府	３位	77
長野県	16位	51
鹿児島県	24位	44
鳥取県	47位	43

全国平均が67分なのに対し、
首都圏の通勤時間はいずれも80-90分台
人口が全国で真ん中の鹿児島県や
最下位の鳥取と比較してみると
通勤時間は倍以上
大阪府と比較しても
通勤時間が長いことがわかる

[出所]平成18年度社会生活基本調査（総務省）調査票Aに基づく結果より作成



敷地調査



問題点1

工場が手狭で、路上にはみ出て作業している、
特に賃貸工場では顕著

→工場面積の確保、歩車分離

問題点2

船溜まりに背を向けて建つ工場群

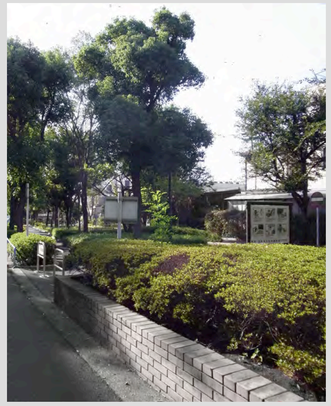
→水辺環境の惡化
海沿いというロケーションが生かされない
工場やドック（船置き場）の老朽化が進み、安全面の不安

問題点4

町工場減少のため小さな工場が点在している

→仲間まわしができない状況
住宅が減少したため、通り全体に寂しい雰囲気が漂う

仲間回し
工場が集積している大田区では、一部の工程作業しかできなくても、近くの工場に工程をまわして発注された製品を納品できるネットワークが築かれていた



問題点3

人気の無い緑道

→付近に小学校があるにもかかわらず
人の姿は少なく閑散としている

問題点5

住民間の意識差

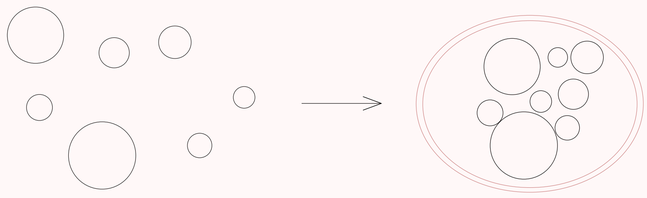
→昔から工場で働く住人と、近年増えたマンションに移り住んできた住人との意識の違い
継ぎ手の無くなった町工場跡地にはマンションが乱立している
今後継ぎ手のいない工場はますます増えると予想される

少ない操業面積を補い、工場群の老朽化を改善するため
町工場クラスターを提案

集積することで
・物理的距離が縮まる→情報共有、流通コスト削減
・集まることで地域自体がブランド化、活性化 ex)秋葉原
・企業の信頼向上、地域へと開かれた工場へ
・仲間回しの復活

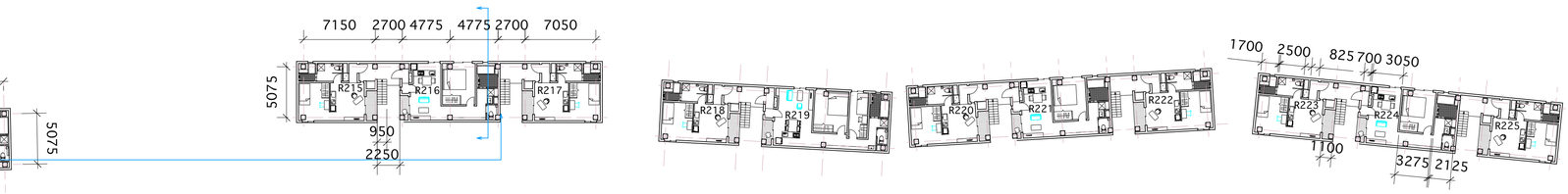
減ってゆく町工場に対し、後世になにか残す
町工場+長屋を提案

・暮らし方の伝承
・新たな住民との関係性向上のため、開かれた工場
・海を眺めることのできる空間

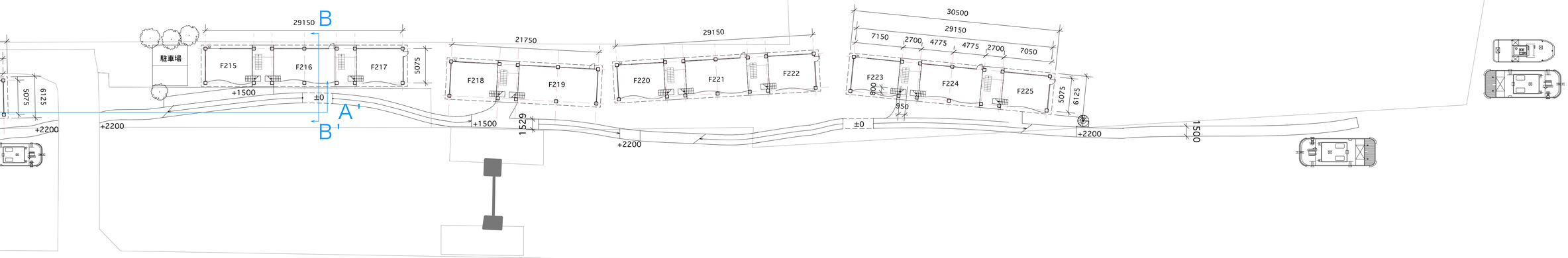


集まる+つくる+暮らす

4800
600
WC
会議室
S202
S203
倉庫
S204
S205
S206
6000
1695
2500
825
3375
1850
1950
7150
2700
5950
2000
2400
R211
R212
R213
R214
3980
3060
3390
3750
775
830
6160
6734
5640
3886
1750
1600
広場
工場
N101
N102
N103
N104
公園
喫煙所
N105
N106
ゴミ・機械
A
管理室
工場
S101
S102
S103
S104
S105
S106
cafe
2900
2200
2050
+2200
21750
23000
F211
F212
F213
F214
+1500
±0
デッキ
H=2200、1500
1:15勾配



2階平面図 1:300

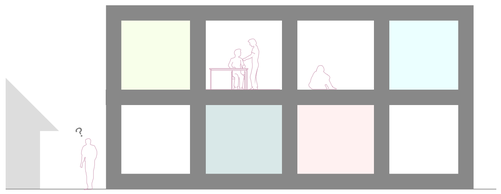


1階平面図 1:300

S,N,F･･･貸工場
R･･････賃貸住宅

PROPOSAL

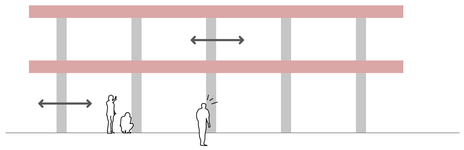
PART1　工場集積の手法



・工場集積はマンション型になってしまい閉鎖的
・工場間、住人と従業員間のコミュニケーションがとりにくい
・壁で間仕切るため、貸し出し面積が一定
・空き部屋を活用しづらい

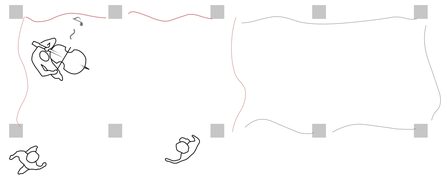
BEFORE

SECTION



・柱、床、屋根で構成し、極力壁の無い空間づくり
・周囲に圧迫感を与えない低層
・透過性の高い素材を間仕切りとして使用
　（工業用透明間仕切りシート、必材入り透明板、ガラスなど）
・道路に面する開口には部分的にシートシャッターを用いる

PLAN



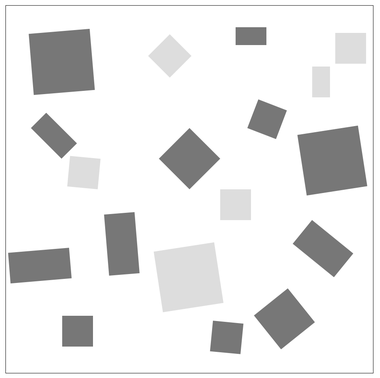
・フレキシブルな空間割りが可能となり、空きスペースを短期的に貸し出し可能
　週末ギャラリーや子供たちの遊び場、地域の集会などに利用
・空きスペースは通りに対して開くので、町に対して工場群が親和性を持つ
・従業員間、住民間の意思疎通が容易となる

AFTER

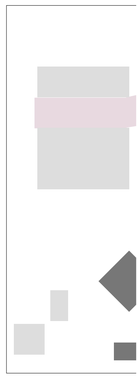
PART2　住工一体の提案

・住まいと働く場所の動線には、海上デッキを採用
・GLから+2200の高低差を推移し、蛇行しながら海まで続く
・長屋住民にとっては、通勤路となり、付近住民にとっては親水公園となる
・デッキ上には、長屋住民専用のスペースを設ける
・海や係留してある船舶、また工場の様子を上から見ることが可能
　長屋部分のプライバシーは保護しつつ見通しの良いデッキとなるようにした

PART3　町工場の今後

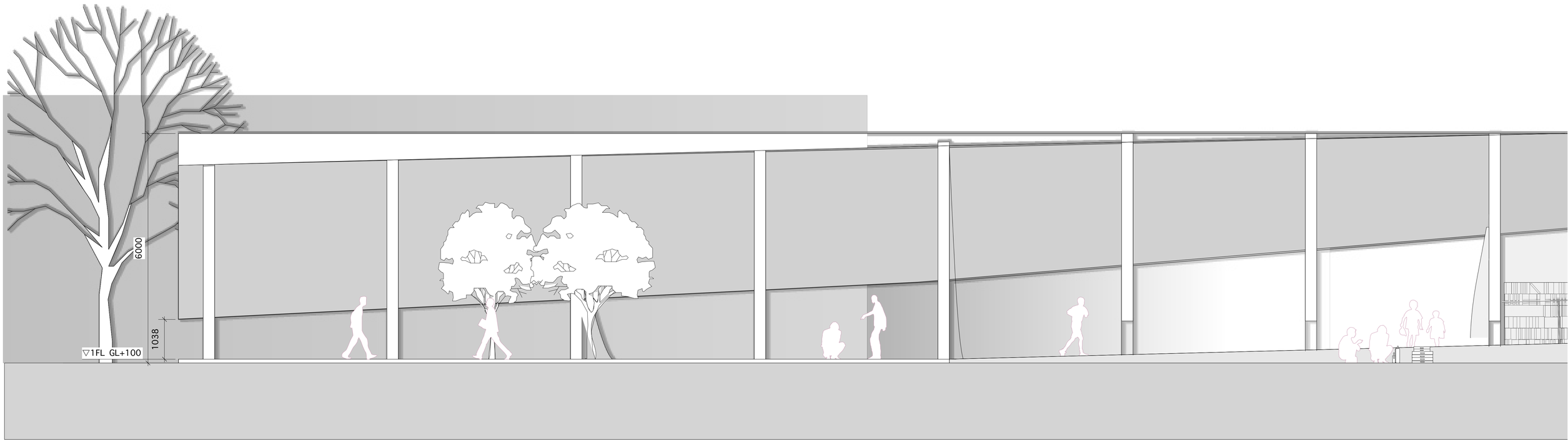


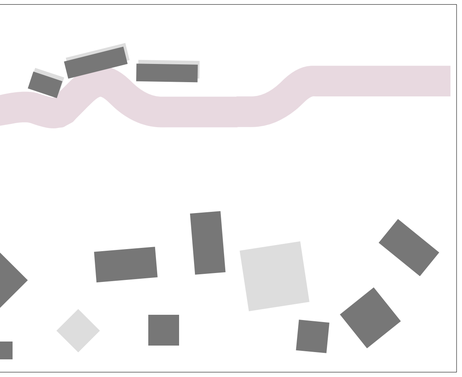
バラバラ　2011



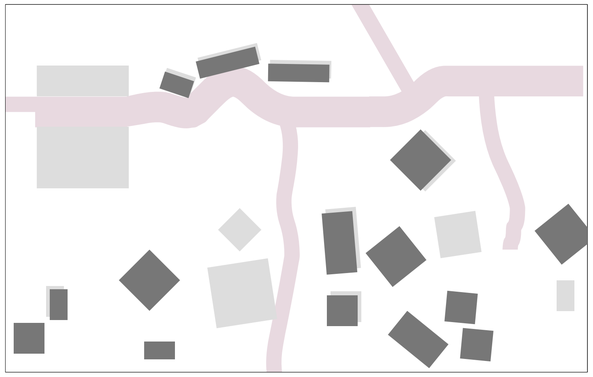
町工場の数は減少傾向

町工場は減ってしまっても、住まいと職場の隣接した暮らし
さらにデッキを始めとした通勤のためのミチが、糀谷地区に広





ミチ　2012

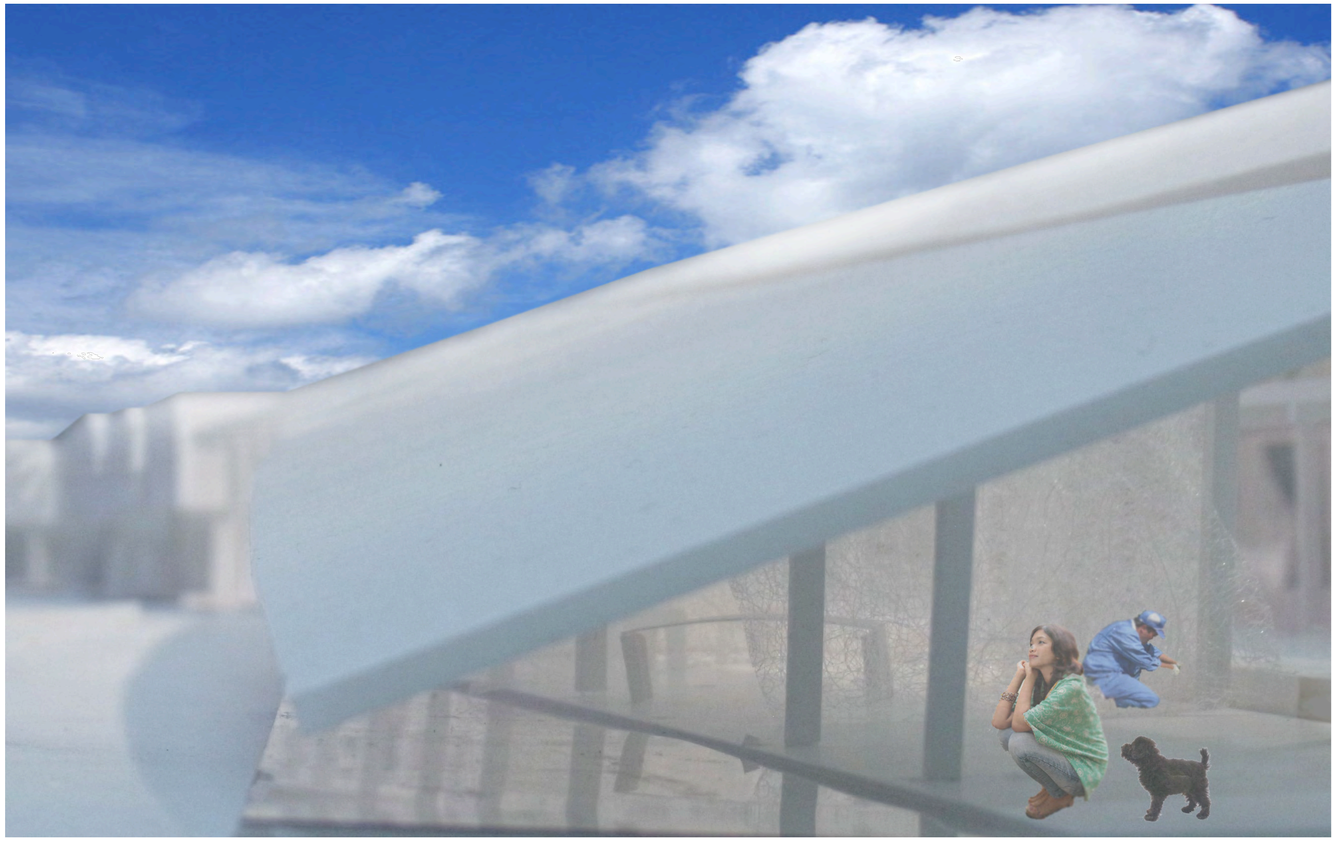


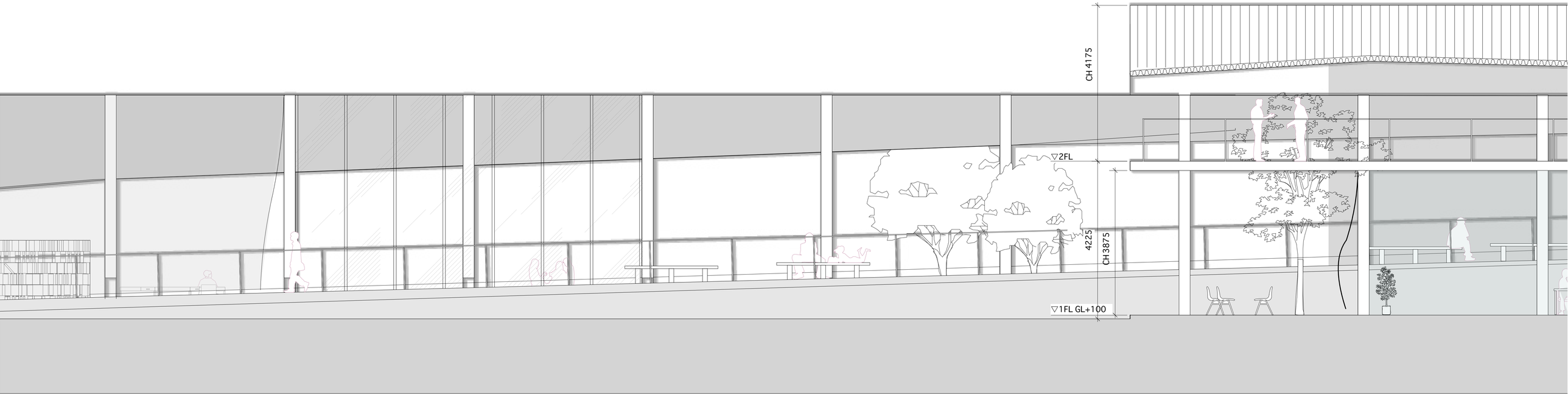
ヒロガル　20XX

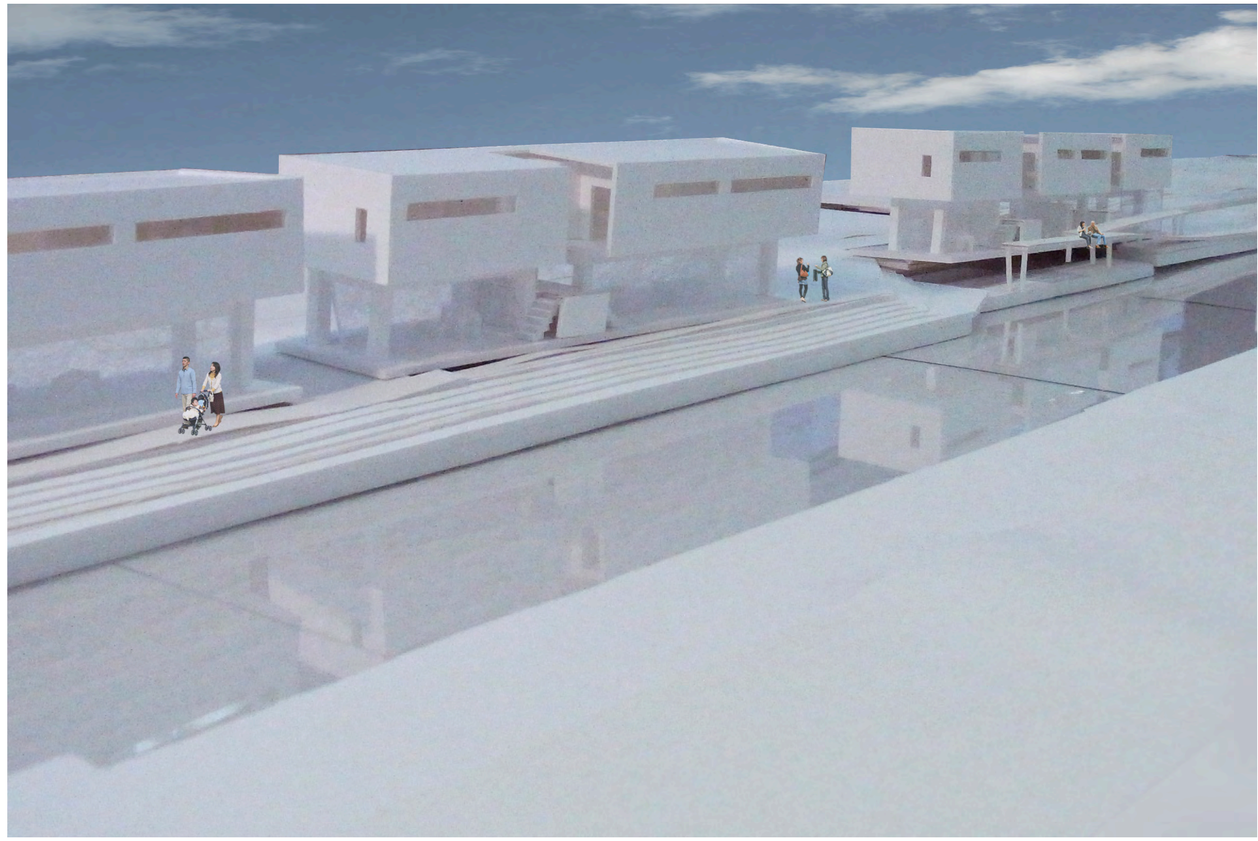
方は糀谷地区の記憶として残る
がってゆく

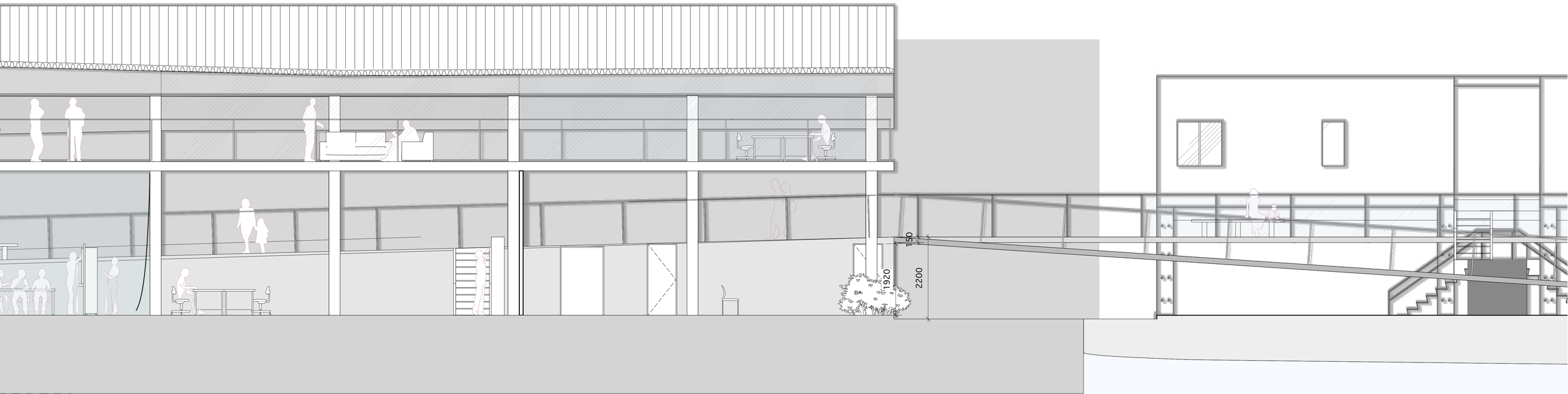
結果として、、

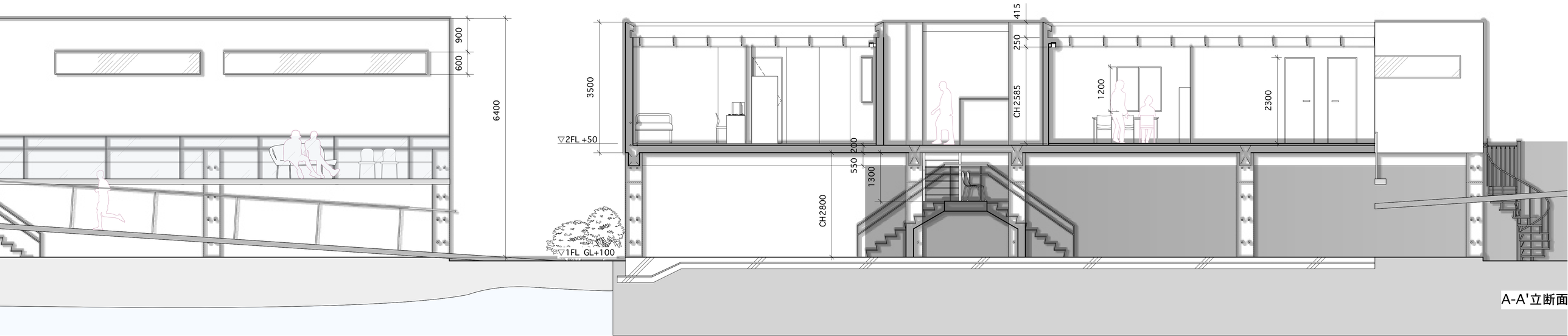
いつかこの町の工場群はなくなってしまうかもしれない
しかし、そこで働く人々のつくりあげたきた生き方は
海のある景色とともに継承されてゆく



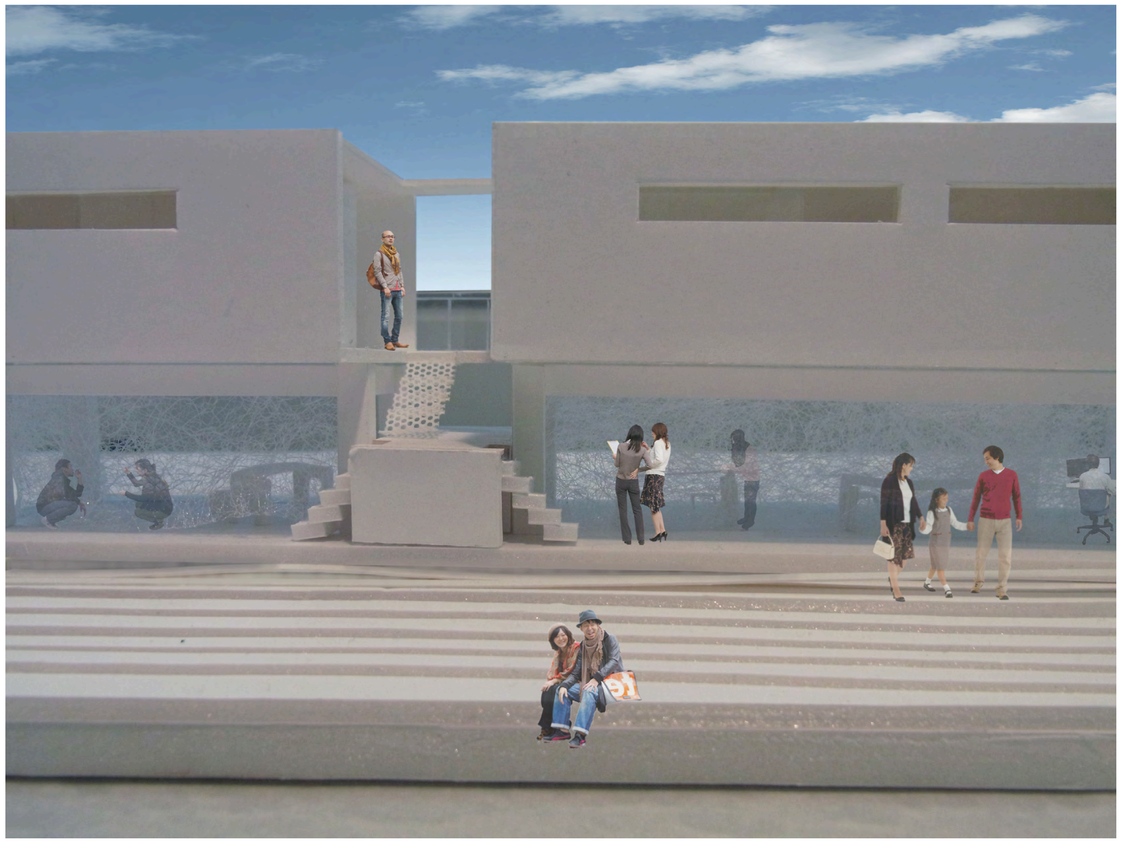


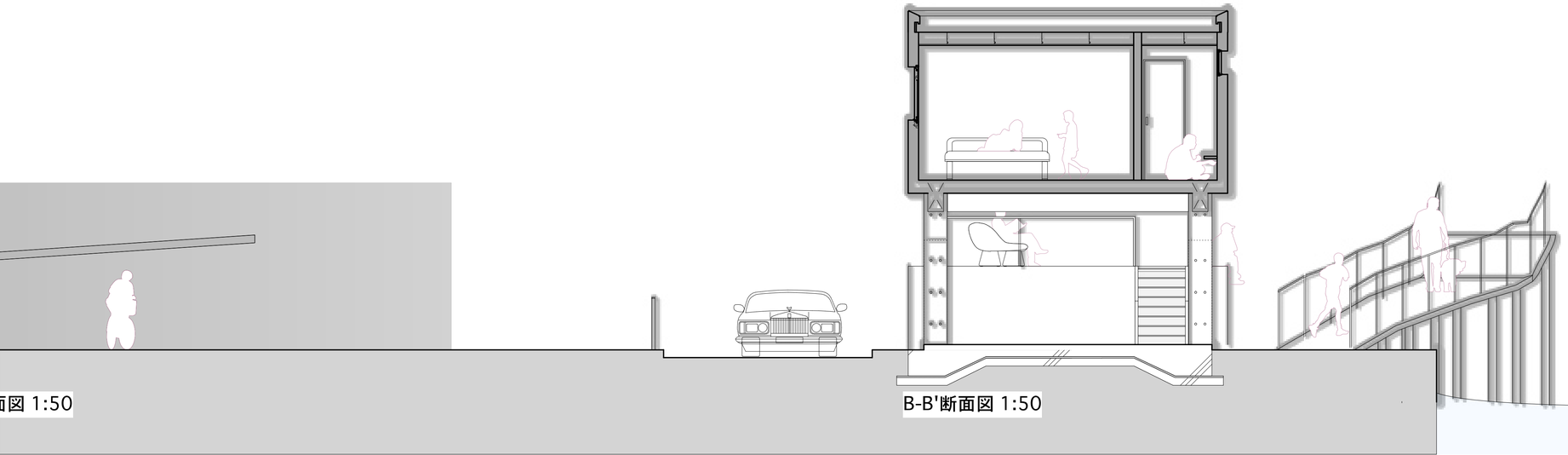



150
1920
2200


900
600
6400
3500
▽2FL +50
▽1FL GL+100
415
250
CH2585
1200
2300
200
550
1300
CH2800

A-A'立断面





面図 1:50

B-B'断面図 1:50